

研究分野のキーワード：幼児教育、発達障害児、障害児教育福祉、教育内容と方法、歴史

研究紹介

高校の教科書には、障害児者の教育や福祉の記述はあまり出てこないかもしれませんが、でも皆さんは身近なところでこうしたハンディキャップのある方を見かけることがあると思います。教育や福祉は、皆さんも含めすべての人々に必要不可欠なことです。

私の研究分野その 1 は、「発達障害児の保育や教育の内容と方法」に関するものです。発達障害という用語を最近では、新聞やテレビで見た人もいるのではないのでしょうか。以前と違ってこうした大変さをもっている人々が社会に伝えられるようになってきました。それは、障害のある人の個性や世界を知ることになり、たいへん大切なことだと思います。

私は、約 30 年間、障害児の教育に実際に携わったり、保育所や幼稚園などを訪問したりして、先生方と事例検討会を通して、発達障害児の育ってきている経過を把握する中で、指導方法を明確にする、子どもの見方を理解することを試みてきました。これは、「実践から理論を導き出す」という考えからです。

と同時に、大学の研究者の立場から、理論の知見を先生方に提供することも行っています。これは、「理論から実践を構築する」という考えからです。

ですから、実践と理論のやりとりをかなり大切にしているのが研究の特徴です。

興味・関心があるようでしたら、『幼児期・学齢期に発達障害のある子どもを支援する』（ミネルヴァ書房、2009 年）、『気になる子どもと親への保育支援』（福村出版、2011 年）などが参考になるかと思います。

私の研究分野その 2 は、「障害児教育福祉の歴史」に関するものです。皆さんの住んでいる地域にも障害児を熱心に支援した人物がこれまでいたのです。ただ、なかなかこうした先駆的な事業をした人のことは知られていないのも事実だと思います。

第一に、人物史研究を着手して、こうした多大な功績をしっかりと後世に残るように跡付けする作業をしています。

第二に、地元の愛知を対象として、戦前と戦後を通じての障害児教育福祉の実践を整理していく作業をしています。

なかなか地道で労力のいる作業ですが、大学や市の図書館、教育センターの資料室、幼稚園や保育所、学校、児童福祉施設などには当時の貴重な史料や資料が眠ったままになっているところがあります。あるいは、当時の新聞記事・その事業に参画していた関係者へのインタビューを通してまとめ上げていくこともあります。

これらの作業を、「アーカイブス」といったりしています。近いうちに名古屋市教育委員会から教育史が刊行されます。よかったら、近くの図書館で見てください。

最後に、皆さんが、障害児のためにボランティア活動をしてくれることを願っています。